



# ふるえがお



令和6年2月21日

松江市立古江小学校学校だより（文責 校長：青山 巧）

## バトンタッチは着々と進んでいます

卒業証書授与式まで残り1か月を切りました。6年生は中学校の先生方に授業を見ていただいたり、学校間でいろいろな引継ぎも行われようとしていたりしています。6年部では、1月から「6年生の3学期は中学校1年生の0学期」という合言葉のもと、中学生になる心構えをあらゆる場面で意識して取り組んできています。小学校生活最後の日まで自分をレベルアップ、学年をレベルアップして行ってほしいです。在校生も負けていません。6年生から学校のリーダーを引き継ぐ5年生は、明日に控えた6年生を送る会に向けて、実行委員会を中心に在校生に呼び掛けて準備を進めてきています。先日のリハーサルではうまくいかないこともあったようですが、本番までの修正力を信じています。

3月4日からは、登校班、掃除の班、コンテナ当番など、6年生が担っていた役割を5年生が請け負い、6年生に見守られながら先頭に立って動きます。しばらくは「責任」の重さに戸惑うこともあると思いますが、それ以上のやる気と成長を期待しています。

1～4年生についても、学級担任から進級に向けての心構えを話されているからなのか、生活や学習のあらゆる場面で「ちゃんとしなきゃいけない」という雰囲気醸し出しています。そんな表情を見ているととても頼もしく、そしてとても嬉しく感じています。

### まつえ「子ども夢☆未来」塾開催

1月24日に松江市教育委員会主催事業であるまつえ「子ども夢☆未来」塾を開催しました。講師のジロー今村さんは地域おこし隊として、得意の大道芸のパフォーマンスを通して、地域を元気にする活動や子どもたちに大切なメッセージを発信してくださっている方です。

2校時は、全校児童を対象としたパフォーマンスを披露くださり、楽しさだけでなく、何度失敗しても成功するまで挑み続ける大切さと成功した時の感動の大きさを子どもたちに直接教えてくださいました。

6年生を対象とした座学では、自分の経験を踏まえて「たのしい大人になってください」というメッセージを伝えてくださいました。

私からは、今村さんが日頃からジムで厳しいトレーニングを積み重ねられている姿を見ているので、だからからこそできるパフォーマンスであり、準備の大切さを伝えました。



2月10日山陰中央新報のこだま欄に本校門脇教諭の投稿が掲載されました。ご覧になった方はいらっしゃるでしょうか？

大学時代は県外で過ごし、県人寮という島根出身者のコミュニティーの中で、ふるさと島根のよさを再確認し、島根で小学校の教員として頑張っているという内容でした。

ふるさと教育について、丸山知事の発言が新聞で取り上げられていますが、ふるさと教育を学校や地域で積極的に推進してきた者の一人と言えることは、学ぶことによって子どもたちが得ることができるものはとても大きいということです。

島根が根っこ（基盤）となり、そこでの豊かな体験や学び、出会いが将来社会人になった時に大きな財産となること、なっていることに疑いはありません。

20日から採用前実習で本校に来ているお二人も、大学は県外に出られています。4月からは島根の小学校教員として頑張られます。

どこで生活していくのかを決めるのは子どもたち一人一人ですが、選択肢の一つとして常に島根があるようなよさをしっかり感じてもらえるようこれからも頑張ります。

## マーブルテレビ取材

2月5日からマーブルテレビの「荒木まどかのぶらっとだんだん」で古曾志町が取り上げられています。その取材先の一つとして古江小学校にも来ていただきました。

全国大会に出場するミニバスのことを宣伝していただくねらいもありましたが、何より地域の方に子どもたちの様子を見てもらうには絶好の機会ととらえ、取材を快諾しました。

その効果は、登校指導や会合でお会いした方々から「校長先生マーブルで映っちゃったよ。」と声をかけられるほどで、大成功でした。

新聞やテレビなどのメディアに出ることは個人情報取り扱いなど配慮を有することもありますが、それ以上に記事や映像を目にされた地域の方がとても喜ばれたり、元気ももらおうといった声を聞いたりしますので、今後も積極的に取材に応じたいと考えています。

別日には全国大会に出場する古江ミニバスチャレンジクラブも取材を受けて、その様子が放映されていました。今度はどんなことで取り上げていただけるのか楽しみにしててください。

## 第3回学校運営協議会

2月14日に第3回学校運営協議会を開催し、今年度の学校評価を中心に協議していただきました。

学力について、「古江小としてつけたい対話力とは何か焦点化して取り組んだ方がいい。」「学校図書館教育の保護者評価が例年低いのは、取組について十分に理解されていないかもしれないので、公開授業などで一斉に取り組むなど発信方法を工夫してみては。」という助言をいただきました。

意見交換の中では、「毎朝とても気持ちのいい挨拶をしてくれる男子がいて元気をもらえる。」という嬉しいお知らせもありました。残念ながら、あいさつをしても返さない子どもも何人いることもわかりました。また、毎朝見続けている地域の方の中には、子どものちょっとした変化をキャッチされ、特に、元気がなさそうな時には積極的に声をかけてくださる方もいらっしゃるそうです。こうした方がいらっしゃることは、子どもたちにとって気持ちを切り替えることのできるきっかけにもなります。ご家庭でもお子さんの朝の表情チェックと声掛けをお願いします。